

令和3年度（2021年度）第3回熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会 議事録要旨

1 日時 令和3年（2021年）9月17日（金曜日）10時00分から11時35分まで

2 場所 熊本市駐輪場 8階会議室

3 出席者 熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会委員（9名）

篠原 亮太 委員長

中田 晴彦 副委員長

小野寺 武治 委員

岩佐 弘子 委員

宮園 由紀代 委員

濱田 麻里 委員

上野 誠実 委員

西原 治雄 委員

山田 幸一 委員

事務局（8名）

三島 健一 環境局長

村上 慎一 資源循環部長

下錦田 英夫 廃棄物計画課長

千原 直樹 ごみ減量推進課長

後藤 滋 環境施設課長

緒方 宏行 浄化対策課長

菅本 康博 ごみ減量推進課事業ごみ対策室長

中村 勝 廃棄物計画課副課長

4 欠席者（なし）

5 次第

(1) 開会

環境局長あいさつ

委員長あいさつ

(2) 議事

【議題1】 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子案について

【議題2】 各施策の方向性について

(3) 閉会

6 配布資料

次第

資料 1 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子案

資料 2 第 3 回熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会資料

開会

【事務局挨拶】

三島環境局長挨拶

【委員長あいさつ】

拝見したところ、前回と比べて、かなり具体的な内容が出てきた。

今日は、この全体の説明をいただくとともに、特に基本計画の中の資料、赤字で印が付いたものの審議となっている。

先ほど事務局からあったように、いろんな局内の打合せの中で出てきた新たなものについて、説明を十分いただきたく、委員みなさんのご意見もいただきたいと思っている。

現在は地球温暖化、気候変動による自然災害が日本を襲っており、今後も台風などの自然災害が起こってくるというのが、地球温暖化の気象現象の一つ。

それから、化石燃料を含む天然資源の枯渇が目の前に迫っている。

人類は二重苦の大きな問題に、直面している状況。

その中であって、廃棄物処理は、私たちの生活環境を衛生的なものにし、さらに次の世代のために地球温暖化あるいは資源の枯渇を、少しでも遅らせて行く。そういう指針を残し、地球温暖化を抑えていくために非常に重要な部分。

十分に皆さんのご意見をいただいて、熊本市がまさに環境都市としての役割を果たしていくための大事な基準となる委員会である。

皆さんの生活に密着した、あるいは、将来夢を描きながら、この委員会を進めていただきたい。よろしくご協議お願いする。

【定足数報告】

事務局

熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会運営要綱第6条第2項の規定により、本委員会の開催のための定足数を満たしていることを報告する。

【配布資料の確認】

事務局より説明

議事

篠原 委員長

「議題1 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子案」について事務局から説明をお願いする。

下錦田 廃棄物計画課長

(資料1 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子案について説明)

篠原 委員長

この骨子案について意見・質問はあるか。

意見がないようなので、この骨子案は承認ということで次に進みたい。

篠原 委員長

「議題2 各施策の方向性について」に移る。事務局から説明をお願いする。

下錦田 廃棄物計画課長

(資料2 熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会資料(廃棄物部分)について説明)

山田 委員

8ページの資源循環のところ、製品プラスチック分別収集の検討という欄がある。

プラスチックは様々な品物に使ってあるので、分別は大変な作業になるのではないかと思う。市民が理解できるような、分別にしていきたい。

例えば、洗濯ばさみだが、金属が付いているものもある。LEDの照明は、カバーはプラスチックだが他は金属。というように分別の判断つきづらい部分がある。

下錦田 廃棄物計画課長

山田委員のご指摘はもっともだと思う。

分別収集を実施するに当たりましては、市民の皆様にはわかりやすいように努めていきたい。

篠原 委員長

そのことについて、現在は、容器包装のプラスチックだけ集めている。

製品プラスチックの分別収集について、国が準備していると聞いているが、詳しい情報はあるか。

下錦田 廃棄物計画課長

情報収集に努めているが、まだ新しい情報は手元に入っていない。

篠原 委員長

この問題が実際に具体化すれば、山田委員が指摘されたように、非常に大きな問題がある。

プラスチックも幅広く、純粋なプラスチックだけではなく、複合的なものについてどうするか。その点については、多くの議論が必要。

国の指針は大雑把な形でしかないと思うので、細かい点は市のほうでやっていかなければ、市民には理解出来ないと思う。

この計画に間に合うかどうか分からないが、国の政策を注視しながら、逐次、市のほうから追加の案を出していくしかない。

小野寺 委員

外国人の方がごみ分別のルールを分からないという事について、外国の方が地域できちんと生活できるように、外国人向けにごみ分別を周知する方法を、充実させる必要がある。

それから、リサイクルの推進だが、不適切排出対策というものがある。

ごみステーションにおいて、ルール違反ごみとの戦いがずっと続いている状況。

ルール違反シールを貼るが、出した人が持ち帰り分別することはない。ある程度の抑制効果はあると思うが、もっと効果のある対策を取り組んでいただきたい。

次に、集団回収について、市民リサイクル活動に対する助成金をいただいているが、活動される方が高齢化し少なくなってきた。また、引き取り業者の買取金額が安定しないなどの問題がある。リサイクル活動がきちんと出来ていくような施策が出来ないのか。

千原 ごみ減量推進課長

まず、外国の方への周知啓発について、ごみ分別アプリを作成している。日本語、英語、中国語、日本にいらっしゃる外国人の60%程度は、簡単な日本語を理解できるということのでやさしい日本語の4通りの方法で検索できるようになっている。それから去年の10月から、ユーチューブ動画を配信しています。こちらは日本語、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、ネパール語の6か国語。熊本市に在住者が多い順に対応している。この情報の紹介については、国際交流会館、外国の方を受け入れる人材団体、不動産会社、大学も含めて、様々なところにご紹介をしている。

今後もこのように積極的に情報を発信し、外国の方も住みやすい熊本市を目指していきたいと考えている。

違反ごみについては、ルール違反シールで対応している、委員のご指摘のとおり違反ごみを出したか方が持ち帰り分別することは少ない状況。しかし、すぐに回収してしまうと改善されないため、一定の周知期間を設けて対応している。ごみステーションの場所によってすぐに対応が必要な場合は、ご連絡をいただければ対応する。

特に、ルール違反がひどいごみステーションについては、各クリーンセンターの啓発班や事業ごみ対策室で対応している。また不法投棄など悪質な場合は、警察とも協力している状況。市民リサイクル、資源物の回収については、コロナ渦という事もありかなり回収量が減っている。年々減少傾向であり、あわせて市況の方もかなり落ちている。対応策として、7月から補助金をキロ当たり7円に引き上げている。ぜひ、積極的に取り組んでいただきたいと考えている。

小野寺 委員

分別アプリについては、以前から知っていて周知しているが、なかなか難しい。熊本市に住み始める外国の方を対象に、ごみの出し方についてオリエンテーションが必要。受講を義務化するようなことをできたら良いと思う。ご検討いただきたい。

出された方に会って説明をするのが、一番効果的だと思うが、ごみステーションのルール違反ごみの中身を確認することが出来ないのも、その資格を持つことが出来れば、もっと活動ができるのではないかと思う。

千原 ごみ減量推進課長

最初の外国人に対する啓発については、いただいたご意見を参考に、関係部署と検討していきたい。

ルール違反ごみの件については、ごみステーションの管理は、利用する者が管理しなければならないと条例で規定している。基本的には自治会が管理されているものであるため、必ずしも違反ごみの中身を確認することが出来ないとは考えていない。しかし、プライバシーの問題もあるので、悪質なものについては、ご相談いただいて一緒に解決していきたいと考えている。

篠原 委員長

違反ごみについて、ルール違反シールが貼ってあるが理由を書いてないので、明確に理由を書いた方が啓発にもなるのではないか。

ルール化したらいかがか。

千原 ごみ減量推進課長

現在もルール違反の理由は記入するようになっている。理由の記入がもれているのであれば、記入するように徹底したい。

山田 委員

私たちのごみステーションでは独自の用紙を作りルール違反ごみに貼り、収集されない違反ごみを 2 週間後くらいに、自治会で分別している。自治会の会員で見回りなども行って、大変苦勞している。

千原 ごみ減量推進課長

ごみステーションの管理については、負担になっているというご意見を多数伺っており、ごみステーションの管理をしていただき、大変感謝している。今後の管理についてはご相談いただき、一緒に考えていきたい。

濱田 委員

私たちの地域では、ごみステーションの掃除が当番制になっている。自分たちで掃除をすることで、認識が高まり違反ごみがなくなってきた。掃除当番制を広めていただきたいと思う。

千原 ごみ減量推進課長

成功した事例を広報的にしていくように、ぜひ検討させていただきたい。

小野寺 委員

子ども地域でも当番制を取り入れているが、学生が多く、入れ替わりが激しい。また外国の方も多く居住されている環境で、非常に対応が難しい状況。

中田 副委員長

私の大学の学生や留学生も含めて、その扱いと対応が難しいと私も日々感じているところ。ご意見のように、地域の方に迷惑をかけないような形で、指導していけたらと思う。

私も江津湖で調査をしているので、マイクロプラスチックの件について、昨年度廃棄物計画課の方が江津湖で調査をされていた。これは、今後も続けていく予定か。

下錦田 廃棄物計画課長

マイクロプラスチックの回収調査については、今のところ今後行うことは考えていない。情報収集を引き続きやっていく必要があると考えている。取組として、江津湖にプラスチックごみが流出しないように、清掃活動などを行いたいと考えている。

中田 副委員長

今後、モニタリングを行い、様々な対策施策をする中でどのような効果があらわれたか、のちに評価できるように、施策を行った前後のごみの量、ごみの種類など具体的数値があれば良いと思う。例えばボランティアなどが集めたごみの種類を分ける、ごみの量を測るなど、ご検討いただければと思います。

下錦田 廃棄物計画課長

アドバイス感謝する。毎月江津湖の清掃をしているボランティアの方々、関係部署、公園課と連携をとって、ごみの種別や量などを把握していきたい。

篠原 委員長

十分な調査と、その結果の公表、解析は重要になってくる。

宮園 委員

消費者側という視点から、代替素材の利用を促進するとある。大事なことだ、すごく規制されるように感じる。消費者が経済的な面だけではなく、心の面でも豊かにできる、そのための代替素材利用というような視点もあれば良いと思う。

例えば、我が家の話だが、炭酸水メーカーを使用していて、ほとんどペットボトルを購入しなくなり、ごみとして出すことがなくなった。多少導入コストはかかるが、私はそれで暮らしが豊かになったと思っている。熊本は木材の生産も多いのでメーカーと協力して、プラスチック製の商品を木材など代替素材で作る事ができればと思う。SNSを使っていろんなことをされているので、ごみ削減も、消費者の行動が変えられるような、そういうアピールが出来たら良いと思う。

西原 委員

食品ロスの件だが、以前あった民間の資源化施設のような施設を再建する場合、行政として協力していくという考えがあるのか。

小さい店が廃棄する場合、生ごみを分別して廃棄するよう業者に依頼をすると、費用が高くなる。将来的に行政が費用負担、別回収などの手助け出来ないものか。

広域化する場合、可燃物を受け入れるということなのか。また、環境工場の受け入れ能力は問題ないのか。さらに、災害が発生した場合の受け入れ能力はどうか。

菅本 事業ごみ対策室長

資源化施設のご質問について、現在民間業者のほうで計画があり、事前協議の手続きを準備している状況。資源化施設が出来れば、現在環境工場に入っているごみが、再生できるようになる。

二つ目の質問については小規模な飲食店から出る廃棄物は、現在受け皿がない状態。先程の資源化施設が出来れば、そちらで受け入れが出来ると思う。他には、きちんと分別が出来ていけば、家畜のえさとして利用できるのではないかと考えている。

村上 資源循環部長

上益城5町1村とのごみ処理の連携については、東部環境工場の延命化目指しており、余力がある。その余力を利用して燃やすごみを日々東部環境工場で受け入れるという協定。処理能力を十分と想定している。災害時については災害の大きさにもよるので、その都度対応を考えていきたい。

上益城郡5町で新工場建設までの暫定的なものと考えている。

上野 委員

プラスチックに関して、ペットボトル及びプラスチック製容器の搬出量が増えている。次の

プラスチック容器包装の収集運搬業務委託に植木地区も加わるのか。また、山鹿植木広域行政事務組合のリサイクルプラザは令和4年4月以降利用しないということか。

下錦田 廃棄物計画課長

植木地区のごみの問題だが、現在は山鹿植木広域行政事務組合で燃やすごみ以外を処理している。そのリサイクルプラザが、来年の3月末をもって老朽化により閉鎖することにより、民間施設で受け入れるということになる。

村上 資源循環部長

植木町は熊本とのごみ処理の統一が決まっておらず、いつから統一するかは決まっていない。山鹿植木事務組合にて合併前の処理を行っており、お答えができない。

篠原 委員長

次に生活排水の処理計画について審議したい。

緒方 浄化対策課長

前回の策定委員会での山田委員と井草委員からのご質問に回答させていただきたい。

山田委員より、下水道の使用料金について、井戸を使用している家庭は世帯の人数で料金を算定するが、上水道使用者はメーター値で料金を算出することは、不公平ではないかというご質問をいただいていた。

上下水道局に確認したところ、井戸水のみを使用しているご家庭については、計量装置、メーターがある場合は計量した水量を、メーター器がない場合は使用人数に応じて算定することになる。現行の料金体制は、平成26年4月より適用されているが、それ以前は減量装置が設置されていない世帯については、1世帯につき1700円、税込みでの定額で算定していた。しかし世帯人数等に違いがあるのに、定額は不公平ではないかとの考えから、他都市の水道等の使用実績調査に基づいた結果を基に従前の算定方法に改定したところ。使用の実態を反映した形で料金体系にしていきたいと考えている。

岩佐委員からの、漁業集落排水施設が以前あったかと思うが、いつ、どのような経緯で廃止されたのかというご質問について、漁業集落排水施設は、県や市関係課にも確認したが、熊本市内の漁業集落排水施設の把握は出来なかった。

緒方 浄化対策課長

(資料2 熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会資料(生活排水部分)について説明)

宮園 委員

し尿くみ取り、単独処理浄化槽利用の人たち減らしていくのが目標と理解したが、なかなか

転換されない理由が分かれば教えてほしい。

緒方 浄化対策課長

はっきりした理由はわかっていないが、ひとつは高齢者の独居で返還に踏み切る事ができない、また単独浄化槽で水洗化はできている点などから、転換が進まないかと思う。昨年、ごみ減量リサイクル推進に関する意識調査を行った。その中の質問で、生活排水処理方法をお尋ねしたことに對して、わからないという方が6.8%という結果であった。転換の必要性を市民へ広報することに、力を入れていく必要があると思う。

山田 委員

転換が出来ない理由がわからないと言う事だが、私の自宅は家単独浄化槽。下水道に転換した場合、転換の工事費と年間の下水道料金の負担が大きい事、高齢化が進んでいる事が理由だと思う。

篠原 委員長

先程のアンケート調査結果で、自分の家の処理方法が何わからないという方がかなり存在する。その方々に対し啓発、啓蒙することが出発点だと私は思う。よろしく願います。

緒方 浄化対策課長

啓発に向けて、いろいろと検討していきたい。

岩佐 委員

小学生の環境教育がコロナ渦の中で行われていないので、安全にできる方法を模索していただけないか。子どもたちに、環境教育を行うのは大変重要だと思う。各クリーンセンターで出前講座を行っているようだが、内容などにバラつきがあるように思う。共通認識を持って取り組んでいただきたい。

下錦田 廃棄物計画課長

ご指摘いただいたことは重く受け止めまして、各クリーンセンターにおいて共通した内容で環境教育ができるように努めていきたい。

篠原 委員長

私も環境センターで、県下の5年生を対象に講座を開いていますが、コロナ渦で昨年、今年と実施出来ていない。現在は希望する学校を対象にリモートで行っています。この環境教育は小学生の関心を高める実績があり、重要だと思う。

岩佐 委員

主灰と飛灰で行き先が違うので、主灰と飛灰と案内してほしい。

主婦やごみを出す担当の人に対する PR を。

販売者側が商品のトレイを統一すると、プラスチックのごみがコンパクトにまとまり、収集を隔週に変更できるのではないか。

過剰な包装を無くすために、事業者、消費者ともに啓発するように働きかけ出来ないか。

篠原 委員長

SDGs の中にも「作る責任、使う責任」とあるが、この問題はやっぱり国が行わないといけない。ただ、この問題はこれからかなり長い努力が必要だと思う。

閉会

事務局

熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会を閉会する。